

# 千瓢

The Senpyo

富山県立大学同窓会機関誌

第6号

発行日 2011年(平成23年)10月1日  
発行 富山県立大学同窓会 会長 荒木 甫／副会長 高田 満  
編集部 「千瓢」編集部 [編集長 池上 効]  
住所 〒939-0398 富山県射水市黒河 富山県立大学内  
電話 0766-56-7500 FAX 0766-56-0396  
メール senpyokai@pu-toyama.ac.jp  
URL http://senpyoukai.pu-toyama.ac.jp/

学長対談

## 前澤新学長に聞く

2011年6月14日(火) 富山県立大学学長室

富山県立大学学長 前澤邦彦

富山県立大学同窓会会长 荒木 甫

### ☆生え抜きの第5代学長

荒木 この度は学長に当選おめでとうございます。

前澤学長 ありがとうございます。

荒木 報道によりますと10年ぶりの学長選挙ということでしたが。

学長 学長選挙は4年に一度ですが、複数の人が立ち、選挙を行ったのは10年ぶりです。

荒木 富山県立技術短期大学時代から36年間の大学生活で、今までの学長さんは外からこられたという感じでしたが、今回、私たちの気持ちとしては生え抜きの第5代学長の誕生という事で、うれしい気持ちなのですが学長のお気持ちはどうですか。

学長 よくそう言われるのですが、実力とは必ずしも一致しませんので忸怩たるものがあります。あまり自信がないです。

荒木 私たちとすれば、今のような大学になるまでに多くの努力の積み重ねがあった筈ですが、その中で努力された方が、なぜ学長さんになれないのかという思いがありましたので、今回それが実り心の中で拍手をしております。



対談中の荒木会長（左）と前澤学長

### ☆出身は長野県松本市 専門は物性物理学

荒木 ご出身は松本だということですが、朝の連続小説「おひさま」の舞台ですね。

学長 松本の出身で松本城が通学のコースでした。

荒木 東北大学工学部応用物理学科の卒業と伺っておりますが。

学長 昔の制度では初め工学部に入学しまして、2年目に電気や機械、土木という分野を決めること

### 目

- 1 学長対談 前澤新学長に聞く
- 6 私の好きなもの  
足立原 貴／鈴木 敏彦／五十嵐 譲／亀田小百合
- 7 大学ニュース
- 8 研究室の近況案内  
微生物工学講座／通信ネットワーク工学講座／資源環境工学・環境政策学講座／機械エネルギー工学講座坂村研究室／マイクロ・ナノシステム工学講座精密加工学研究室
- 11 平成22年度同窓会総会報告  
電子情報工学科1回生 吉野 靖  
11 “つながり” 総会実行委員長 奥原 正樹
- 12 インタビュー「女王バチを作るロイヤルゼリーの成分を発見！」  
鎌倉 昌樹 講師（生物工学科）

- 13 同窓会日誌 2010年8月23日～2011年8月12日
- 15 田中正人前富山県立大学学長を送る集い
- 15 アルビレオ杯ゴルフコンペ
- 16 探しています
- 18 恩師を囲んで応用数学科第1回生東京クラス会  
応用数学科1回生 馬場伊美子
- 19 20回目の同窓会は横浜港の船上で  
技術短大 衛生工学科4期生 池沢美津子
- 20 平成23年度同窓会総会案内
- 20 声
- 20 編集後記

題字は浦野泰子さんにたのみました。浦野さんは富山県立大谷技術短期大学の応用数学科の1期生です。

## 前澤 邦彦(まえざわ くにひこ)

富山県立大学 学長

昭和43年3月 東北大学工学部応用  
物理学科卒業

昭和50年3月 東北大学大学院工学  
研究科応用物理学専  
攻博士課程修了(工学  
博士)

昭和50年8月～53年3月 富山県立技術短期大学講師  
昭和53年4月～平成4年3月



富山県立技術短期大学助教授

平成2年4月～6年3月 富山県立大学工学部助教授

平成6年4月～10年3月 日本原子力研究所嘱託研究員

平成6年4月～23年3月 富山県立大学工学部教授

平成23年4月～ 富山県立大学学長

平成23年4月～ 富山県立大学短期大学部学長

## 荒木 甫(あらき はじめ)

富山県立大学同窓会会长

昭和40年 富山県立大谷技術短期大  
学生衛生工学科第1回卒業

昭和43年 大阪工業大学土木工学科  
編入卒業

昭和43年 県職員 勤務

平成16年 県職員 定年退職

平成16年 初代富山県立大学同窓会会长就任

現在、(社)富山県建設業協会小矢部支部 勤務



になるのですが、応用物理を選びました。

**荒木** この学科の中でも、特にご専門は物性物理学と伺っておりますが、これはどの様な学問なのでしょうか。

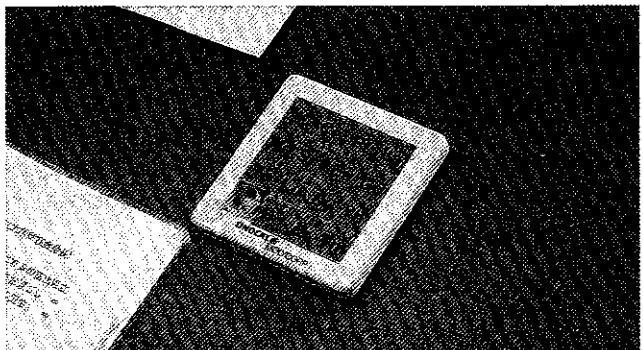
**学長** 物理学はあえて大きく分けて、原子核とか素粒子を扱う分野と物性を扱う分野と2つがあります。原子核とか素粒子の研究は究極の物質構成要素の研究です。原子核はいろんな粒子から出来ています。

**荒木** そのあたりまではなんとか理解出来るのですが。  
**学長** 物質は原子核があってその周りに電子がありま

す。原子がたくさん集まって何か物質を作ります。一つの原子の中には多くの電子があり、外側にある何個かはその原子を離れて物質全体を動きまわるようになります。あるいはその電子が原子核の周りにいる他の電子と相互に作用しあったりします。そのようなことから多くの性質が生まれます。磁石になったりそうでなかつたり、電気を伝えるもの伝えないもの、そういういろいろな性質が電子の挙動から生まれてきます。

**荒木** 先生のご説明をいただき、乏しい知識の中で漠然とながらも理解できました。もう一つ、ランタノイド(希土類元素)の研究についてお教えて下さい。

**学長** それは周期律表をみていただければ分かると思いますが、(学長が希土類の元素名が書いてある14個のピースでできたパズルを探して荒木会長に示しながら)今このパズルは順番でなく、ふぞろいに並んでいますが、原子番号57から71番まで14個の原子を希土類といいます。これに周期表ですぐ上にある2つの元素を加えて言います。



希土類の元素記号名が書いてあるパズル

**荒木** この希土類の14個というのは昔から知られていたのですか。

**学長** そうです。このなかでランタンやセリウムはラ



芝生と肥料と農薬

(株)岡本清右衛門商店

TEL 0766-24-0230  
FAX 0766-24-1197

- 建設コンサルタント
- 地上、GPS測量
- 地図データ作成
- 補償コンサルタント
- 3Dレーザー測量
- 車載型3次元映像解析
- システム開発、販売
- 遺跡調査



株式会社 上 智

代表取締役 社長 楠 則夫

本社 磯波市千代 176-1 TEL(0763)33-2085・FAX(0763)33-2558  
支店 富山・県東部・南砺・高岡・射水・小矢部・石川・新潟・上越・中四国・  
香川・近畿・あわじ・山口・三重・和歌山・大阪・京都・中部・岐阜・東北  
出張所 滋賀・丸亀・福井

建設・補償コンサルタント  
調査 計画 測量 補償 上下水道

株式会社 雄 川

代表取締役 雄川洋一

本社 〒939-1357 富山県砺波市小杉 213 番地  
TEL 0763-33-5628 FAX 0763-33-2895  
小矢部支店・県東部支店・新川支店・南砺支店・高岡支店・射水支店

株式会社 中部設計

代表取締役 中瀬壽

本社 〒930-0029 富山市本町10番2号  
TEL 076-442-4161 FAX 076-441-3704

イターの発火石に使われたりします。この60番のネオジムは鉄との合金で強力な磁石を作り出します。ネオジムの前は62番のサマリュウム合金が強い磁石の代表でした。原子の構造からして、うまく合金をつくれば強い磁力を持つのです。そういう材料として使われています。

**荒木** 希土類という字からは、どんなものなのだろうかなと思っておりました。

**学長** 先ほどランタンについて言いましたが、ランタンのある化合物は水素を貯蔵する合金としての応用が期待されています。最近のテレビはほとんど液晶になりましたが、それまでのテレビのブラウン管に塗ってある蛍光体は原子ナンバー63のユーロピウムの化合物です。希土類というと皆さん、なんだろうかと思われますが。多くの身の回りに使われています。

**荒木** 案外身近なところにある物質なのですね。

**学長** 希土類の希土は土に希と書きますが、セリウムとかランタン、ネオジムは案外多い元素ですが後は少ない元素です。横文字で言えばレアアースです。レアメタルという言葉もありますが、レアアースがイコール、レアメタルではなく、レアアースはレアメタルの一部です。

**荒木** 最近いろんなことで問題になっていますが。

**学長** 中国が輸出制限をしている問題ですね。

## ☆工学部でやっと自前の実験

**荒木** 新聞に、「富大へ通って実験を続けてきたが工学部になってやっと自前の実験が出来た」との文面が載っていました。正直、短大時代と工学部でそんなに差があったのかと驚きましたが。

**学長** 技術短期大学時代はお金とか設備はほとんど無かったです。私は教養にいたので特になかったです。私を呼んでくれた先生が富大的教授で、出入り自由で、実験も自由にやらせてもらいました。おかげさまで実験研究が出来たし、論文も書くことが出来ました。

## ☆教養教育

**荒木** 教養の話しが出てきましたので、後からお伺いしようと思っていたのですが、県立大学には今、五学科、それに教養教育というのがありますよね。教養教育には学科という名称が付いておりませんが、これはどのように理解すればよいのかお聞かせ下さい。

**学長** そうですね。学生を直に持っていないから学科とは呼ばないわけです。例えば機械システム工学科について考えてみると、機械システム工学科に入學して4年間勉強して卒業研究をして出て行くわけです。教養はそういう意味での学生は持っていない。ただ県立大学では、20名くらいの教員をおいて、全学の基礎教育と外国語それと社会・人文の分野を担当している。

**荒木** 教養という文字だけがあって、塊、つまり組織

を示す表現が付かないんですね。

**学長** 一般の方々からすると良くわからないかもしれませんね。大学の運営組織として学長がいろいろな学科があつていろんな委員会があり、その組織図の中に教養教育が書かれていないのは不自然です、どこかに入れないと外から見えないですね。その点は改善すべきですね。話しは横道にそれますが、よく誤解されるのですが教養教育出身というと文系の先生と思われるのですが、私は学部で教養教育に属していますが、大学院では知能デザインの教員で修士論文の指導や一昨年は博士の指導もしました。

## ☆36年前の大学

**荒木** 先生が太閤山にこられたのは36年前だと存じておりますが。

**学長** その時、千成商店街はありましたが、その他は何も無くほとんど造成中でした。

**荒木** その時は何処にお住まいだったのでしょうか。

**学長** 富山市の西田地方の公舎でした。車で通っていましたのですが、その時公舎には12人の先生がおられたのですが、車で通っていたのは私だけででした。ほかの方はJRでしたね。西田地方には15年いたのですが。15年目までにはほとんどの方が車通勤になりました。この間の車の普及は大変なものだったですね。

**荒木** 私が学生時代の昭和39年頃ですが、車通勤の先生はたったお一人だけで、私が兄貴の軽四を引っ張ってきたときには学舎前の駐車場にたつた2台が並んでいるだけでした。

**学長** 車の変化で、このあたりも道路が出来ました。

**荒木** 駅南線が出来て、小杉駅からのアクセスも格段に良くなりましたし。

**学長** 昔は、よく学生が教員室に来ました。

**荒木** 私らもよく先生のところに遊びに行きました。

**学長** 今はほとんど学生が教員室に来ることはありません。試験直前にまじめな学生が来ることがあります。普通のときに来る学生はいません。

**荒木** (笑いながら) それは少し寂しいですね。かたや学生かたや教員という割り切った形になってしまっているのですかね。昔はそれなりに繋がりがあったように思います。

**学長** ただ全体に学生も教員も忙しくなりました。今は学生には厳格な成績評価があり、けっこうレポートもあり、忙しいです。教員も忙しいです。

**荒木** 先生方にも要求されることとか、資格維持とかの問題もありますね。

**学長** 大学評価もありますから。

## ☆趣味は演劇と山歩き

**荒木** 先生のご趣味について伺います。機関誌「千瓢」には「実験」とか書いてありましたが。いまも実験、実験ですか。

**学長** 今、実験は辞めちゃいましたけど、学生時代か

らよく山を歩いていました。富山へ来てもよく山を歩きました。

**荒木** 健康の為に何か心がけておられることはありますか。

**学長** 何もありません。

**荒木** 演劇がお好きだとお聞きしましたが。

**学長** 長く観ています。長く観ていると変化に気づきます。同じ作品を何回も見ていると役者が変わったり、解釈が変わったりして面白いです。今までに三百を越える舞台を観ていると思います。「きらめく星座」や「三文オペラ」や「上海パンスキング」が好きです。井上ひさしの作品は好きで、まじめな話の中に笑いがある点がいいです。

**荒木** 学長職に専念ということで、教育の現場からはお離れになってしまったのですね。

**学長** 直接的には離れました。

**荒木** 寂しいというお気持ちにはおなりになりませんか。

**学長** まだそういうことを感じる余裕がないですね。

## ☆知能デザイン工学

**荒木** 大学の構成の中で知能デザイン工学がありますが、すこし分かりにくいでご説明をお願い出来ませんでしょうか。

**学長** 機械とか情報といったら分かるのですが、知能デザインはちょっと分からぬですね。これはロボットを例に説明しますと、ロボットを作るのに必要なものは、まずはメカニカルな動き運動で、機械の構造的なものです。また精密な工作が必要となります。この為には機械工学の知識が必要です。何かを感じて動くようにする為には、センサーが必要ですし、シグナルを検知して機械の動きに変える為には、電子工学の技術が必要になります。それからもう一つ必要なのは情報です。状況を判断して自動的に動くようにするには、プログラムが必要です。また、よく言われるインターフェース、人と機械のマッチングも必要です。例えば指紋認証もインターフェースですね。ロボットを作ることは機械工学、電子工学、情報工学の基本知識の上に成り立っている。たまたま今回の話はロボットですが、総合技術的なものは多くあります。知能デザインはそこをやろうとしているのです。従来の機械とか電気とかにとらわれず、それをベースに総合技術を作り上げようとしているわ

けです。それも知能の高いものを目指しています。

いろいろな分野が融合したものであるということがよく理解出来ました。



## ☆東日本大震災

**荒木** 3月に東日本大震災が起きましたが、富山県立大学の中で何か変化とか、特別な影響はあったのでしょうか。

**学長** よくはわかりませんが。今のところ直接的な影響は無いと思います。間接的には出てくるとは思います。環境については見方を変えていかなくてはならない点が出てくると思います。例えばエネルギーについては一基で百万キロワットという電力を作るのではなく、それも必要ですが、一方でもう少し小さな規模の電力でその地域地域に供給していくようなシステムが必要だという時代になるように思います。

**荒木** 先生は東北大出身ですので、震災に関しては心を痛められていることだと思います。本大学の同窓生でも二十数名の方々が福島・宮城・岩手におられるとの情報を得ておりますし、在校生も含め大学として何か特別な事柄はあったものでしょうか。

**学長** 在学生については特に被害は無かったようです、命に関するとかの危険は無かったと聞いています。被害が確認できれば、授業料等で考えようと思っています。

## ☆キャリア教育

**荒木** キャリア教育という言葉は学外の人にとっては耳新しい言葉だと思いますので、分かりやすく教えていただきたいと思います。

**学長** 高校から大学に入り、その間にほとんど社会というものを知らないという傾向が最近強くなっています。若い低学年のうちから社会を知り、うちの大学は工学部なので工学部を卒業したらどうなるのかを低学年のうちから意識をしてもらおうという目的です。特に2年生全員に工場見学を取り入れています。企業を知る木曜日というのもありますし、木曜日に企業から来ていただいて、その企業でやっていることなどをお聞きする機会を持っています。これは1年生から参加できます。もちろん3年生になればカリキュラムの中にインターンシップがあります。このように総合的に若いときから社会を意識する、将来仕事に就くのだということを意識して、外を見るということを教育の一環としてカリキュラムに組み込んでいます。

**荒木** 大切なことです。3年になってから慌てるのではなく、低学年から対応することは必要ですね。

**学長** 低学年の内からいろいろ見て、意識することは大事で



すね。

**荒木** これに関係して、キャリアカフェが開所したそうですが。

**学長** もともとはキャリアセンターがあり、そこは主として求人が来たり、また自分で調べたりした就職の相談、またエントリーシートの書き方の指導や面接の指導などをやるところです。

**荒木** 面接の指導ですか。

**学長** 3月4月早々から就職活動をやっていますが、面接の前に模擬面接をして悪いとこを指摘したりしています。これがキャリアセンターでそこが手狭になったこともあります。主にキャリアセンターは3年の後半から就職期間をカバーするところですが、キャリアカフェはそれよりも幅広く、1年生から利用できます。就職関係の書籍があり、ネットも使えますしアドバイザーがいて、企業についてや進路について相談に乗っています。学生が自由に入り出でて自分の進路について考える場として作りました。

**荒木** 自由に入れて、自分の将来を考えることが出来る場があるのは幸せですね。

**学長** 学生時代には無かったですか。

**荒木** ありませんでした。当時は在学期間も短いことと学生自身が「自分のことは自分で」の意識が強く、特に必要ではなかったのかもしれません。

## ☆専門職を育てる

**荒木** 学長就任の記者会見で「これまでの路線を基本的に引き継ぎ、発展させたい」と表明されました。

**学長** この富山県立大学は地方の工学部の単科大学ですね。そういう点から見てみると、大学の目的はエンジニアという専門職を育てるということです。まず教育ですね。同時に社会貢献です。一つは大学の学術的な研究と地域産業が結びつき、产学が連携して地域の発展に貢献する。それから、県民の知的な文化的な要求にこたえる活動です。例えば公開講座などですね。ダビンチ祭は理科に小さいときから親しんでもらう為の活動です。理系に進む学生が少ないので、関心を持ってもらって増やしていく為に何か大学として出来ないものかと思っています。

**荒木** 高校生ではっきりとした、進路をもっている子は少ないように思います。

**学長** そうですね。今、高校で理科といえば物理とか化学とか生物とかありますが、その中で物理I、IIの履修者は全国で十数パーセントですよ。



あまりに少なすぎますね、それで技術立国というはどうかと思います。いかに工学部へ来る母集団が少ないかということです。

## ☆就職率は全国トップクラス

**荒木** 就職では、本学は相変わらず全国のトップクラスを誇っておりますが。

**学長** 一面は先ほど言ったキャリア教育を行っているためだと思います。少人数大学だから出来るところで、面接指導や企業の選択などのアドバイスをきっちりきめ細かくやっているからだと思います。

**荒木** 就職率がトップクラスということは、全国から学生が集まって来るということに繋がりませんか。

**学長** そのような影響はあります。

**荒木** 就職先は県外が多いのでしょうか。

**学長** 今年の3月の数字ですけど学部卒の県内就職率は50パーセントを超えてます。大学院は40パーセントを超えてます。全部ならると45パーセントです。県内からの入学生が40パーセント強のときの卒業生の数字です。県内には物造りの会社がたくさんあるからかもしれませんね。

## ☆同窓会と大学

**荒木** 2005年に千瓢会と工学部同窓会が一本になり富山県立大学同窓会として活動していますが、まだ力不足な面があると思っています。機関誌の発行や同窓会総会の記念講演の一般公開や大学祭に対する助成、同窓会の一部のパーティの一般学生に対する解放などを行っていますが、長い間大学をみてこられた学長さんからも是非お知恵を拝借したいのですが。

**学長** 知恵は無いんですけど、東京の強力な私立大学の同窓会のように豊かな資金をもち大学を支援するということは出来ないと思いますので、常に大学の近くにいていただいて接触して行き来できるような同窓会であってくれるとうれしいなと思います。

**荒木** 山口事務局長は大学に常駐していますので何かとご連絡をいただければと思います。

**学長** 大学の中にいてもらえることは大変いいことだと思います。また工学部の同窓生が同窓会の理事会等に参加して運営に参加していることは良い事だと思います。

**荒木** 去年の総会は工学部のメンバーを中心にやってもらったのですが、なかなか好評でしたので、いよいよ新しい同窓会の時代が到来したのかなと喜んでおります。これからも大学の力になれる同窓会を目指して頑張りますので、いろいろとご助言を賜れば幸いです。

本日はお忙しい中を対談にお時間を割いていただき本当に有難うございました。



# 私の好きなもの

**足立原 貴** (あだちはら とおる)

NPO農業開発技術者協会・農道館理事長

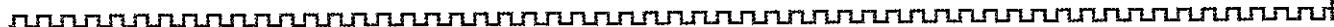
①がなくて、②もなくて、③もない。

困りましたね。「原稿執筆依頼」を受けて、なんと、この始末。決して、ふざけたり茶化したりではありません。

じゃあ、どうして依頼を諒承したの？

こんな思考迷路を伝えるのも、元教員の役割ではないかと……。

そもそも、〈好き〉〈嫌い〉がない性分なので、「私の好きなもの」と出題されて「思考停止」。……でも、と思い直して、思考迷路に入り込んでしまいます。うーん、“もの”か、“こと”ではないのだな。その“もの”も、“者”ではあるまい、“物”だろう。ひらがなで書かれているから“物”に限らず“ものごと”として広くとらえればよいのだろうけれど、“物”か“者”



**鈴木 敏彦** (すずき としひこ)

工学部教養教育准教授

①猫

十数年前、動物実験舎の野鼠対策のために猫を飼い始め、私と一緒に出勤し、動物実験舎内の実験室で一日を過ごしています。現在、二代目です。大変甘えん坊で、誰が来てもすり寄る癪やし系の猫です。しかし、実験中は邪魔をせず、大人しくしてくれます。私はいわゆる猫派ではなく、猫を飼う前は犬を飼っており、今も犬を飼うことは諦めてはませんが、妻にこれ以上増やしては困ると止められています。(家にはもう一頭別の猫がいるので)。

②本

子供の時には学校の図書館の本をよく読みました。それ以来、推理小説は内外問わずよく読みましたが、最近では時代小説に



**五十嵐 譲** (いがらし ゆする)

技術短大草農業科1975年卒 福島県在住

①子どもの笑顔

現在、福島県いわき市の公立小学校に勤務しています。子どもたちから笑顔で「先生、できるようになったよ」「今日は楽しかったよ」等と声をかけられると、落ち込んでいるときでもいつぶんに悩みが吹っ飛びます。

②登山

山登りが大好きで、日本百名山に挑戦中です。53座登りました。フル装備で単独山行です。苦しいですが山頂に立ったときの達成感や成就感は最高です。今年は北・南アルプスを中心に計画しています。剣岳は2年前に登りました。

③居酒屋巡り

月1回程度用事で上京するので、2~3軒寄ります(地元で

にはひっかかるんですね……。沈思黙考……ハッと『人物』という『者』に気づきました。

〈好き〉〈嫌い〉の次元を超えて『人物』という『者』に関心を抱きます。いまどき盛んに言われる「人材」ではありません。育成されて使い捨てられる「人材」ではなく、発見されてやがて史上に輝く『人物』。好感を超えて敬意を抱きます。

## 《近況報告》

心肺機能が心配な不健康体ながら、元気そうにしています。7月15日が誕生日。81歳になりました。

平成19年3月から月1回のゆっくりペースで毎日新聞北陸版に連載している『「身の始末」ノート』が、7月9日に第46回となりました。

はまっています。面白いもので、忙しい時ほど本を読みたくなります。

③音楽

子供の時はボーカリストでよく音楽コンクールに出たことがあります。学生時代にバンドをやっていましたし、いろいろなジャンルの曲が好きです。今はイージーリスニングを研究室で聴いては仕事をしています。

## 《近況報告》

来年3月に定年を迎えることになりました。大学に勤めてから40年近くになりますが、この間に体重が増えたこと位しか自分の進歩がなかったことを思い知らされています。今、定年後の過ごし方を考えていますが、できれば、クラシックギターを習おうかと思っています。

は行かない)。下町人情酒場の雰囲気が好きで、店の常連さんと飲んでいると心が温かくなります。因みに、お通しを出す店、若者が多い店、チェーン店には行きません。BS6チャンネルの「吉田類の酒場放浪記」が参考になります。

## 《近況報告》

3月11日14時46分、校長室から児童の下校の様子を眺めていると震度6弱の地震に見舞われた。教職員に児童の安全確保を指示し、全児童を帰宅させたのは夕方であった。そこからが苦難の連続。学校に400名の避難民。津波被害は無かったが、余震の連続と原発問題。現在、放射線量は校庭で $0.2 \mu\text{Sv}/\text{h}$ である。学校の教育活動が制限され、本当に残念である。原発問題が一刻も早く終息することを願っている。

**亀田 小百合** (かめだ さゆり)  
短大部農業技術学科農業土木専攻 2003年卒

①愛用品

自分で手帳を持つようになってから、必ず六曜が入った手帳を選んでいます。毎年いろいろな種類があって、使い始めた頃はどんなものがいいのか迷いましたが、今は決まった形式のものを探すようにしています。今使っているものは六曜の他、新月と満月の日がわかるようになっています。(^^)

②愛読書

お気に入り図書は「エッシャーとペンローズタイル（谷岡一郎著）」。エッシャーの不可能な图形、様々な图形を使った平面充填など、何度も読んでも先人の着眼点に感服します。お気に入り漫画は「聖☆おにいさん（中村光著）」。自覚めの人ブッダと、

神の子イエスの下界バカンスのお話です。

③愛車

何より大事な私のCELICA。学生時代から大事に乗っています。公道では私と同じCELICAや同時期に人気だったスポーツカーに出会う機会がかなり少なくなりました。しかし！さすが県大、学生駐車場にはたくさんいて嬉しくなります！(^^)/

《近況報告》

今年4月頃から運動不足の解消にと思い立ち、フットサルを始めました。今はまだ初心者で、ボールに遊ばれている状態ですが………(^^) 体力をつけてゲームで楽しめる様になりたいです！

## ア大学ニュース =

●役職教員

●学長	前澤 邦彦	教授
●工学部長	石塚 勝	教授
●短期大学部長	楠井 隆史	教授
●学生部長	松本三千人	教授
●副学生部長	中村 清実	教授

●工学部

教養教育主任教授	原口志津子	教授
機械システム工学科主任教授	森 孝男	教授
知能デザイン工学科主任教授	大島 徹	教授
情報システム工学科主任教授	松田 弘成	教授
生物工学科主任教授	中島 範行	教授
環境工学科主任教授	高橋剛一郎	教授

●退 職

平成23年3月31日をもって退職されました。  
長い間お疲れ様でした。

田中 正人 先生

平成19年4月～平成23年3月 学長

中 哲裕 先生

平成2年4月～平成6年3月 工学部 助教授  
平成6年4月～平成23年3月 工学部 教授  
平成21年4月～平成23年3月 附属図書館長

安達 正利 先生

平成2年4月～平成9年3月 工学部 助教授  
平成9年4月～平成23年3月 工学部 教授

丸山 義博 先生

昭和47年4月～昭和53年3月 富山県立技術短期大学 助手  
昭和53年4月～昭和61年3月 富山県立技術短期大学 講師  
昭和61年4月～平成4年3月 富山県立技術短期大学 助教授  
平成2年4月～平成19年3月 短期大学部 助教授  
平成19年4月～平成21年3月 短期大学部 准教授  
(学校教育法改正による職名変更)  
平成21年4月～平成23年3月 工学部 准教授

●新規採用

●工学部

教養教育	室 裕司	准教授
機械システム工学科	土井 一幸	講師
情報システム工学科	鈴木真由美	講師
生物工学科	中村 正樹	講師
	戸田 弘	助教

●名誉教授

平成23年6月16日に名誉教授の称号を授与されました。  
田中 正人 先生  
中 哲裕 先生  
安達 正利 先生

# 研究室の近況案内

## 微生物工学講座

教授 五十嵐康弘 准教授 尾仲 宏康  
助教 奥 直也

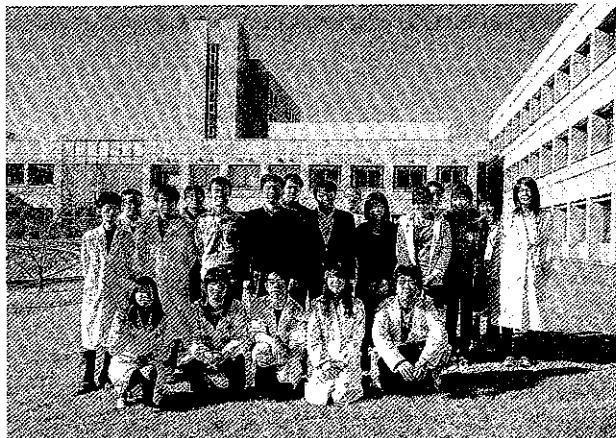
私たちは色々な場面で、自然由来の物質（天然物）の恩恵を受けています。例えば、最近のドラマに出てきた‘ペニシリン’はカビの培養により工業生産されており、今日でも感染症治療に広く用いられていることを皆さんはご存じでしょうか。あるいは、種無しブドウは、カビが生産する‘ジベレリン’という物質を果実に吸収させることで作られていることをご存じでしょうか。

私たちの研究室では、医薬や農薬として有用な活性を持つ天然物の発見を目指して研究しています。最近では、好熱性細菌、水生細菌、光合成細菌などこれまで薬資源として注目されなかった微生物の成分について、抗菌活性や抗癌活性を調べています。また、植物や動物など微生物以外の天然資源も対象に含めて、医農薬のシーズとなる物質の探索を幅広く進めています。天然物は生物の進化と並行して、生物により生み出された物質であり、その中には我々の想像を超えた機能と可能性が秘められています。特に癌のような未だに治療法の確立しない疾病の治療には、天然物の利用が不可欠であると考えられています。

私たちは自然から多くのことを学んできました。昆虫の雌雄はお互いをどのようにして認め合うのか、フグ中毒の原因は何か、アジサイの花色が変化するのはなぜか、いずれも天然物の研究を通して解明されてきました。科学の急速な進歩を目の当たりにすると、私たちは自らの無知を忘がちですが、自然界には我々が気づいていない

生物工学科

いブレイクスルーのヒントがまだ多く残されています。それを見落とさずに、新しい発見をするためには、常に謙虚な姿勢で自然に向き合っていくことが肝要と言えます。



生物工学科1期生が修士課程2年にまで進み、私たちの研究室は、大学院生7名、学部生6名、研究員4名に教員を加えた総勢20名の大所帯となりました。そのうち2名は中国からの、1名は韓国からの留学生であり、今や英語が公用語になりつつあります。若人たちから湧き出る活気に満ちた雰囲気の中で、私たちの発見した物質がいつしか社会の役に立つことを夢見て、研究に励んでいます。

理化学器機・産業機器 計測・試験機器

**山本理化**  
山本文雄

〒930-0887 富山市五福二区5369  
TEL: (076)432-1658 FAX: (076)432-1659  
E-mail: yamamoto-rk@fancy.ocn.ne.jp

建設コンサルタント・補償コンサルタント  
調査・測量・計画・換地・補償・監理

**朝日コンサルタント株式会社**

代表取締役 森永晃  
(農林土木科 第1回卒)

本社 〒935-0023 氷見市朝日丘4-29  
TEL(0766)74-0774(代) FAX(0766)74-0894

水門・橋梁・除塵機・消雪設備・取水設備・ミニ発電設備・バイオ関連事業  
設計・製作・施工



**水機工業株式会社**

代表取締役 野村 幸三



本社 富山県富山市黒崎172番地  
TEL (076) 491-2533(代)  
FAX (076) 423-3368  
営業所 小矢部・金沢  
ホームページ: http://www.suikikogyo.co.jp/

総合建設コンサルタント

**北建コンサル株式会社**

測量・調査・設計・補償



代表取締役社長 鷺北慎一  
本社: 〒933-0941  
高岡市内免3丁目3-6

TEL:(0766)23-3666(代) FAX:(0766)23-3987  
支店/富山・射水・南砺・東部・小矢部・金沢

## 通信ネットワーク工学講座

教授／松本三千人 講師／岩本 健嗣

松本研究室は、情報システム工学科が開設された2006年4月に開設された研究室で、情報通信技術（ICT）の活用によって、地域住民の安心・安全・快適な生活の実現を目指しています。具体的には、高速・モバイルネットワーク、携帯型情報処理端末、GPS技術、電子タグなどの技術を活用して、高齢者や障害者がより安心して快適な生活が送れるようなアプリケーションシステムの研究開発を進めています。

岩本研究室は、2009年に開設された研究室で、ユビキタスコンピューティング技術や携帯電話に搭載されたセンサの応用技術の開発を行っています。特に、センサネットワークを利用したビニルハウスの監視システムや、携帯電話を利用するARアプリケーションの開発、アルペンルートでの実証実験など、地元の企業や地域のニーズを取り入れた研究開発に力を入れています。

私達の研究室は、2009年4月より共同して研究室を運用していますが、現在、博士前期課程の大学院生5名と卒業研究生6名が所属しており、ユビキタスネット社会を支える基盤技術、サービスアプリケーションに関する研究開発を行っています。

「自分で考え、自分で行動する」そして、「楽しく」「元気に」、いろいろな事に積極的にチャレンジすると言う

情報システム工学科

のが、研究室の基本的な方針です。私達教員は、学生が活動しやすい環境を作る事が一つの役割だと考えています。この2年間に、学生達は中国、ドイツでの発表を含め、国内外の国際会議に4件、電子情報通信学会や情報処理学会の研究会や全国大会に7件発表する等、積極的に全国区へ挑戦しています。また、毎年、ロボットプログラ



ミング大会への参加、他大学研究室との交流、夏の研究合宿などを通した学生間及び学生と教員間のコミュニケーションを大切にしています。

これからも、皆と一緒に「楽しく」「元気に」世の中に役立つシステムの研究開発を進めて行こうと思っています。

## 資源循環工学・環境政策学講座

教授 九里 徳泰

九里研究室は、環境工学科が工学部に新設された2009年4月に開設された研究室で、企業における環境マネジメントと行政等の環境政策に関する研究及びその応用実践を行っています。企業における環境マネジメントは現代企業にとっては必須の経営手法であり、環境政策は自治体・政府において温暖化や生物多様性とやるべき課題がたくさんあります。

私は工学部にいながら社会科学（いわゆる文系）出身の教員です。大学は商学部で経営学を専攻。大学院は総合政策研究科で企業における環境問題解決に関する経営学と環境科学の横断領域を研究し「環境経営学」を創りました。私の研究室は、このように文理融合で、社会調査（アンケート）や社会統計データベースを用い、統計学を使った応用数学アプローチ、文献による哲学的アプローチの2つの手法を用い、現実に目の前にある問題を解決してゆくオプション（取りうるべき方策）を社会に提示してゆきます。最近では、環境省から委託された中小企業の環境経営推進策、CSR（企業社会責任）活動の推進策の研究及び策定が1つの大きなテーマです。重要なことは、「研究のための研究ではなく、社会を豊かにする研究」をすることです。

また、「常に世界一を目指す研究を。最低でも日本一を！」が研究室のモットーで、学部3年生から学会発表をしてもらっています。私の出講先でもある法政大学人

環境工学科

間環境学部鶴田ゼミとも合同ゼミナールを毎年開催しています。これまでに学生は2回の国内招待講演、1回の国際学術発表、環境省予算での受託研究と高いレベルで研究活動を続けています。ゼミ生は学内での研究活動だけではなく、フィールドワークで企業見学や社長インタビューにも出かけたりもします。人とのコミュニケーション



ションが社会との重要な接点となります。これを象徴するのが、私のゼミではゼミメンバーをお客さまに見立て「お茶を入れることです。煎茶、番茶、茉莉花茶、レギュラーコーヒー、エスプレッソ、紅茶、、最初はうまくできません。1年もするとゼミ生みんながいつでも美味しいお茶が入れられるようになっています。たかがお茶、されどお茶。「まず腹(かい)より始めよ」の精神です。

## 機械エネルギー工学講座 坂村研究室

教授 坂村 芳孝

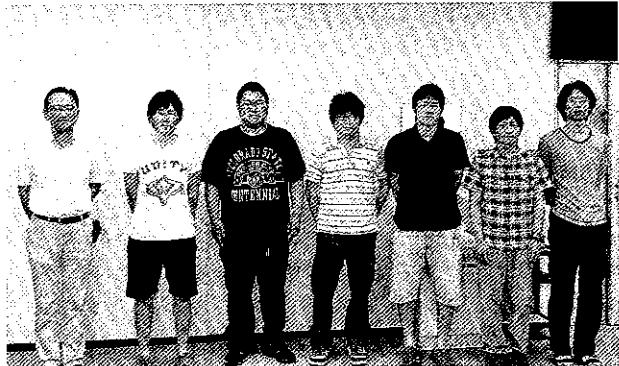
私たちの研究室では、機械工学分野に現れる高速・高温流動現象の解明とその工学的応用を共通のテーマとして掲げ、様々な研究を行っています。現在は、以下のような研究テーマに取り組んでいます。

- ・マルチフィジックス統合シミュレーションによる爆風飛散物の影響評価：変形・破壊を伴う物体と流体との連成運動をコンピュータ上で再現することで、爆風により発生する飛散物の軌道を予測し、影響評価を行います。物体の変形・破壊は粒子法と呼ばれる手法で、衝撃波を伴う高速気流は高解像度衝撃波捕獲法でシミュレートしています。
- ・機能性発光色素を用いた表面圧力・温度のイメージ計測技術：ポルフィリン等の機能性発光色素をセンサとして利用することで物体表面の温度や圧力を光学的に計測する技術の研究を行い、航空機からマイクロマシンに至る様々な機器の設計に役立つツールを開発します。
- ・大気圧プラズマ流の放射特性：高周波パルス電源を用いて生成した大気圧プラズマ流の放射特性を調べ、放電の維持機構を明らかにするとともに、プラズマ流の数値シミュレーションに用いられる各種反応モデルの妥当性を検証します。

研究室に在籍する学生は、これまで習得した知識を総

機械システム工学科

動員してこちらの課題に取り組みながら、技術者として必要となる基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを身に付け、社会に巣立っていくことになります。4月からは新たに3名の卒研生を迎え入れ、今年度は総勢5名の学生+αの人員で、研究を進めています。



H23年度の研究室メンバー

社会で活躍している卒業生の皆さんのお声は、われわれの励みになります。お忙しいとは思いますが、時間があるときには是非研究室に顔を出して下さい。最新の活動状況については、坂村研ウェブサイト (<http://kotorapu.toyama.ac.jp/sakalab/>) でも随時紹介しています。こちらも是非ご覧いただき、ご意見等をいただければ幸いで

## マイクロ・ナノシステム工学講座 精密加工学研究室

教授 前田 幸男 講師 岩井 学

家電、医療機器、自動車、航空機など、身の回りの“もの”を作る「ものづくり」の一丁目一番地は生産技術と言えます。本研究室では、マイクロ（1ミリメートルの千分の1）からナノ（1ミリメートルの百万分の1）の領域の材料加工技術を研究しています。微細な加工が求められる超精密加工には、従来の切削、研削、研磨加工などの単独技術では要求を満足できません。そこで、超精密加工、電気加工、制御、計測などの複数の技術をシステム化した加工技術を開発しています。最近の研究テーマをご紹介します。

医薬品試験用のマイクロ流路金型の加工：薬液を分子レベルで合流・分配するため、例えば、幅200マイクロメートル、深さ50マイクロメートル（髪の毛の太さは直径約100マイクロメートル）の微細な流路が使われています。私達は微細な刃物を用い、マイクロ流路の金型の加工を研究しています。

航空機部品の環境調和型加工：航空機には低燃費・軽量化を目的にチタン合金や炭素繊維強化プラスチックが多用されています。これらの素材は加工が難しく、高能率、高精度な環境調和型加工技術が必要をされています。その他、液晶ディスプレイ用光学部品の超精密加工、水ガイドレーザによるダイヤモンド工具の精密成形、導電性ダイヤモンド工具によるマイクロ加工などにも取り組

知能デザイン工学科

んでいます。

研究室の基本方針は「研究・開発は、夢で始まり、情熱で継続され、責任感で纏め上げられる」です。何事も「楽しく」、しかし「厳しく」をモットーとしています。自らの創意工夫とPDCA（Plan→Do→Check→Act）サイ



毎月の研究室ゼミの後に行われる研究室コンバにて

クルを身に着けます。学生時代に、沢山の失敗と脳内モルヒネが出る成功を経験して欲しいと思います。また、研究だけでなく、恒例の研究室コンバを毎月行っています。精密加工「学」から精密加工「樂」となるよう、メンバー全員がコミュニケーションの充実を図っています。

平成22年度同窓会総会  
(平成22年11月20日・ボルファートとやま)

奥田実先生の記念講演

## 「オトナの社会学」

電子情報工学科1回生 吉野 靖

開学20周年記念として、工学部奥田實教授による「オトナの社会学」記念講演が行われ、会場には学生時代受講した卒業生をはじめ、先生方が多数参加しました。

富山県立大学を卒業したオトナ達は、長い歳月を経てサラリーマン、主婦、看護婦、会社経営者と立場も見た目も様変わりしました。

講演の冒頭、卒業生から「起立！礼！」の大きな掛け声が始まり、オトナになった生徒達は現役時代よりも真剣に授業に耳を傾けていました。



奥田先生の記念講演

社会学と言うと…学生当時は正直あまりピンと来なかつたのですが、講演が進むにつれ自分を取り巻く生活環境において自分と相手、自分と現代社会がどう関わっているのか鋭くメスが入りはじめました。

組織における目標達成と和の維持に対し、作業完了に重点を置くタイプ、和の維持に重点を置くタイプ、自分達はいったいどのタイプなのか？とオトナ達に質問をぶつける場面がありました。奥田先生は卒業生の当時の客観的事実を涼しい顔で説明し、会場を懐かしく和やかな雰囲気に包みました。また、現代の子供達は、豊かさゆえの集団行動の協調やコミュニケーションが不足していることを懸念されておられました。子供達に現実を無くしてしまうような生活はさせてはいけないと声に力が入る場面もあり、非常に印象に残りました。

今回の記念講演で、自分が現代社会とどう向き合っているのか、自分を振り返るとても良い機会になりましたが、本当は講演を通じて今後の人生にエールを送ってくださったのかもしれません。開学以来変わらぬ奥田先生の人柄を実感し、20周年にふさわしい講演となりました。先生に対する感謝の気持ちを抱いてオトナになった生徒達はまた富山県立大学の卒業生として卒立って行きました。本当にありがとうございました。

## “つながり”

同窓会総会実行委員長 奥原 正樹  
電子情報工学科1回生

今回、工学部と短大部の同窓会が合併して、初めて工学部主体にて同窓会を開催し、多数の工学部卒業生に出席して頂き、無事終えられたことを大変うれしく感じております。この場をおかりしまして、ご指導して頂きました先生方、同窓会の諸先輩方、大学関係者の方に感謝申し上げます。

今回、実行委員委員長に携わり、2つの“つながり”を感じました。

一つは、“人とのつながり”です。昨年の同窓会会報紙の封筒裏面を見て頂けましたでしょうか？（忘れた方 見てみて下さい）会報に興味を持って頂けるように、会報の封を切って頂けるようにと、同窓会の案内を掲載と共に、講演して頂きました奥田先生、実行委員の顔写真を掲載いたしました。懐かしい、あれどどこで見た人では…と思われたのではないでしょうか？

実際、自分自身も「写真見たよ」と仕事上お付き合いのある方から多数お声を頂きました。普段会っている人が実は同窓生だったのかと、これまでと違った親しみを感じました。短大部の先輩方や後輩が一線で頑張っておられる事をうれしく感じております。

二つ目は、“言葉のつながり”です。懇親会の際、ある同窓生に「この鉛筆はどんな形ですか？」と講演された人ですね」と聞かれて、もう10数年前の講演会の話題で盛り上がったことです。

それは、卒業2年目に、大学事務局から依頼された講演会（在校生の就職活動の一貫としてのOBの体験談）に、話した内容の一つでした。ちなみに、この答えは、断面の六角形だけでなく、側面の長方形もあります。答えは一つだけでなく、様々な立場から物事を見てほしいということを、鉛筆の見方に例えて学生さんに訴えたのでした。十何年も経っても覚えていてくれたことに感激したとともに、言葉の重みというものを痛感いたしました。

同窓会で、当時の仲間と会って学生時代を振り返って懐かしむ、近況を話しあうのも良いでしょう。同窓会は、より自分のつながりを広げる場であってほしいと考えております。

次回は、あなた自身にて、最初の一歩を歩み出して見ませんか？何かの“つながり”を発見できるかもしれません。



(広告掲載企業一覧)

朝日コンサルタンツ、岡本清右衛門商店、雄川、北建コンサル、上智、新日本コンサルタント、水機工業、中越興業、中部設計、富山県農業協同組合中央会、日水コン、山本理化



## インタビュー

女王バチを作る  
ロイヤルゼリーの成分を発見!

鎌倉 昌樹 講師

(富山県立大学工学部生物工学科・農学博士)



ミツバチが女王バチに分化する仕組みを解明。その結果を英国の科学雑誌「Nature」（電子版2011年4月24日号）に発表した鎌倉昌樹氏。その思いを伺いました。

—取材を受けて大変だったのではないかですか。

鎌倉 多くの取材を受けて大変ありがたいなという思いです。最近は「Nature」の著者インタビューを受けました。

—今回の発見のポイントはどこですか。

鎌倉 ゼロベースの働きバチを作り出し、それが女王バチに分化する過程を調べてその誘導する物質を見つけたことです。ロイヤルゼリーを40℃で30日間保存したものを作ると、ミツバチの幼虫すべてを働きバチへと成育することが出来ました。そこで新鮮なロイヤルゼリーと40℃で30日間保存したロイヤルゼリーの成分を比較検討しました。高温保存で何種類かのたんぱく質が減少していくおり、そのなかのロイヤラクチンが女王バチの分化を誘導することが分かったのです。女王バチは、働きバチに比べて体のサイズが1.5倍、寿命は20倍、卵を1日に2000個も産みます。

—ハチに統いてハ工の実験をされましたか。

鎌倉 ミツバチは遺伝子組み換えの実験が禁止されている為、発生生物の解析しやすいショウジョウバエで実験しました。メスのハ工にロイヤラクチンを与えたところ、サイズ、寿命、産卵数の増加が認められました。これで確信が持てました。

—今まで女王バチの解明はされていなかったのですか。

鎌倉 ほとんどがチャガチャで、ある推論はあったのですが、それでは何も説明できませんでした。今回の発見は、それを理論的に、実証的にスッキリと解決したものです。

—今までの研究生活について教えてください。

鎌倉 京大の修士課程終了後、民間企業に就職したのですが、基礎研究をやりたいという思いが強く転職し

ました。そのとき『基礎研究をしたいという思いはあったのですが、自分が本当に望んでいる研究は何なのか』という疑問がわきました。その悩みから仕事を選んだりせず自分が出来ること全てに挑戦しようと思い、転職後の企業で、販売促進、教育、普及活動など研究に関係ないことも手がけました。そのなかから仕事に取り組む姿勢を学び、現在も生きていると思います。世の中にはいろんな仕事があるが、多くのことを経験して、基礎研究、世の中の基礎になる研究がしたいという思いが強くなりました。

—富山県立大学へきてからは。

鎌倉 富山県立大学へきた理由は、基礎研究をやるためにです。前の職場でロイヤルゼリーの研究をしていたので、女王バチ分化に興味があり、大学で本格的に研究に着手しました。愛知県の養蜂家からミツバチの幼虫のサンプルの提供をうけ、毎回、富山県から愛知県まで高速道路を往復10時間かけて、その後、幼虫の移作業を深夜までやりました。昆虫の飼育は初めてですが、観察を続けているうちに幼虫の顔の見分けがついたり、エサのことや培地から引き上げるタイミングがわかつたりコツがつかめました。研究を進める上で、企業でやってきたことが活きました。

—これから研究については。

鎌倉 ロイヤラクチンはこれからも研究を続けていくと思います。他の動物（マウス）を通じた研究も行い、遺伝子だけでなく基礎研究により世のため社会のためになる研究したいです。基礎になるメカニズムを解明したいのです。

—趣味はどんなことですか。

鎌倉 仕事の延長になりますが、専門の本を読むことです。

インタビューを終えて

少し早口で「基礎研究が好きで、世のため・社会のために研究したい」という気持ちが伝わり、圧倒された。

# 同窓会日誌

No.10

この日誌は富山県立大学同窓会の山口郁子事務局長の  
日誌です。同窓会のホームページに掲載したものです。

2010年8月23日～2011年8月12日

[2010年]

8月23日(月)

プリンター大活躍で印刷しています。他の作業もしながらなので印刷が完了するのは今月末かな…。

9月3日(金)

最後の工学部の分の印刷で完了しました。正会員用の準備は完了。ちょっとホッとした。特別会員・大学同窓会・広告主さんの宛名印刷をして、案内文も作成しなくては。

9月7日(火)

まだまだ「千瓢」の完成ではないのですが、前段階として発送業者との打ち合わせです。10月1日に到着するには9月27日までに業者へ納入と/o返事でした。

9月14日(火)

理事の方が先日来からお願いしてあった工学部同窓生で県外の方々へ同封する富山県の観光案内のパンフレットを持ってきてくださいました。また、ゴルフコンペの日程も決定しました。

10月4日(月)

本当ならもう会員の皆さん的手元に「千瓢」が届いているはずなのですが、ちょっと遅れています。もうしばらくお待ちくださいね。

10月5日(火)

今日、年会費の自動振込手続き用のFDを郵便局へ持って行きました。郵便局の受け付けの仕方が以前と変わって、窓口の方も手間取っていました。

10月6日(水)

午後から池上編集長の所へ「千瓢」掲載用の写真を持って行きました。今後の打ち合わせ・確認もしましたが、いつ仕上がるのかドキドキです。

10月8日(金)

「千瓢」の初校ができてきました。細かいチェックをしながら、確認中です。

10月13日(水)

最終校に近いものができてきました。遅くなりましたがようやく完成の目途が立ってきてホッと一安心です。

10月15日(金)

封筒が仕上がってきました。宛名シールを貼ったり、収支報告・振込用紙を入れたりと「千瓢」が仕上がるまでに終えておかなければならぬ作業です。来週中に仕上がるか不安なので、週末に自宅に持ち帰って作業して来ようと思っています。

10月18日(月)

封筒の袋詰め作業も佳境です。一人では大変なのでバイ

トさんをお願いしました。順調に進みそうで安心しました。

10月21日(木)

封筒への「千瓢」以外の物の袋詰め完了です。後は「千瓢」の仕上がりを待つばかりです。

10月25日(月)

今日「千瓢」第5号が仕上がってきました。発送業者に手渡して、後は業者にお任せ。やっとという感じですが、ホッとしました。

10月26日(火)

県庁や学内にも配布しています。

11月4日(木)

実行委員会です。なかなか総会出席者が集まらず四苦八苦です。もうひと頑張りだーーー。

11月8日(月)

会計監査をしてもらいに、砺波まで行きました。

11月10日(水)

封筒に印刷したバーコードでこちらに総会出席の連絡をしてくださる方がボチボチいます。ちょっと嬉しい反応です。私事でご迷惑をかけていて、なかなか理事会を開くことができません。どうしましょう。

11月16日(火)

午前中に会計監査をしてもらいました。しっかりハンコももらいましたので、総会資料の印刷開始です。総会出席者もそろってきてボルファートさんへ最終人数の連絡をお願いしました。

11月18日(木)

総会出席者名簿も作成し、資料などをボルファートへ運んでもらいました。

11月20日(土)

よいお天気に恵まれ、総会日和でした。総会・記念講演会・懇親会と無事終えることができ、やっとのんびりできるかな。今回は20周年という事もあり、工学部生を中心でした。30名余りの工学部卒業生が出席されたこと これは素晴らしいよかったです。来年につなげでいければよいですね。

12月2日(木)

新しい学長に前澤教授が選ばされました。教養教育の先生で、技術短大時代の同窓生にとっても馴染みのある先生ですね。私も教わったことがある先生ですので今までの学長より親近感がわくのですが…。

12月20日(月)

先週末にやっと記念講演会のDVDを原稿をまとめてくださる実行委員の方にお渡しできました。こちらの作業が遅くてご迷惑をかけています。

12月24日(金)

今日はクリスマスイヴ。ホワイトクリスマスで寒い一日です。来週から早めの正月休みをとる予定ですので、今日は一生懸命仕事をしなければと思っていますがなかなかはかどりません。一部年越しですね。トホホです。

[2011年]

1月4日(火)

新年明けましておめでとうございます。大学の職員さんたちも今日から出勤ですが、私はメールチェックだけで来週

# 千瓢

から仕事始めとします。今年もよろしくお願ひいたします。

## 1月11日(火)

長い正月休みも終わり、今日からまた頑張ります。とはいっても休みボケか、なかなか仕事がはかどりません。困ったことです。

## 1月14日(金)

昨年から行っていたアンケートの修正がやっと終了のめどがつきました。こちらから「千瓢」を送ってはいましたが、会員の方々の現状把握ができていなかったので今回のアンケートはずいぶん役に立ちました。

## 1月18日(火)

アンケートに基づいての修正の中で、もうお亡くなりになっているとの連絡を受けたのはちょっとショックでした。死亡に関しては連絡がない限りこちらではなかなか把握できることですから、その会員のご家族の方々にはいやな思いをかけたかと思うと心苦しい限りです。

## 1月20日(木)

なかなかできなかったホームページの修正をしています。更新が遅れていて皆さまには随分ご迷惑をかけております。なんといっても、一年ぶりの総会風景や「千瓢」のページを編集するのでかなり硬くなかった頭がついていくのに四苦八苦で頑張っております。

## 3月14日(月)

理事会を開きました。私用で欠席したのですが、石坂先生にお任せして無事終わりました。ありがとうございました。尚、今年の総会は大学祭の期間中に学内で行う予定です。

## 3月30日(日)

今迄の同窓会担当の職員さんが移動となりました。ありがとうございました。いつも思うのですが、少し慣れたころに移動されてしまうので(だいたい3年)新しい方と良い関係を気付くのがちょっと大変です。

## 4月1日(金)

今日から新年度です。学長も変わり、新しい大学のスタートです。

## 4月6日(火)

今日は入学式です。ラポールでの入学式となってからは、学内が華やいでいるなくて少しさびしく感じるのは私だけでしょうか。

## 5月12日(木)

ゴルフコンペの事で学長の所へ副会長と行きました。新学長になってから初めてでしたが、前澤学長は卒業生の私にとっては物理を教わった先生ですからとても親しく感じました。「千瓢」のことや総会の事もついでにお願いしてきました。

## 5月25日(火)

住所不明となっていた卒業生が事務局へ知らせに来てくださいました。時々卒業生が来られるとうれしい限りです。先週「千瓢」の広告依頼をさせていただいたのですが、少しづつ広告が来ています。大変な時にありがとうございます。

## 5月30日(月)

朝から雨風も強く寒い日です。いつまでも寒くてなかなか暖房が手放せません。「千瓢」の特集に学長対談を企画しております。今日は学長・会長の予定の調整をしています。

## 6月3日(金)

原稿依頼に学内の先生の所へ行きました。その時に東北の地震の話となり、以前大学におられた先生の状況も確認できてホッとしました。卒業生も数名そちらにいるのですが、安否が気になります。

## 6月7日(火)

昨年の総会で行われた奥田先生の講演会概要を依頼していた方から原稿が送られてきました。原稿を読みながら当日の事を思い出し、今年の企画も考えねばと思案をしています。「私の好きなもの」の原稿依頼を東北の方々にもと思ってピックアップしてお願いしました。近況も書いていただけると地震後の様子もわかると思います。

## 6月14日(火)

午後2時から1時間半学長と会長の対談をさせていただきました。生え抜きの学長で私にとっても教えてもらったことがある先生というだけでとても近く感じ、和やかな対談でした。この対談は「千瓢」第6号に特集記事で載せ

 <p>(社)全国上下水道コンサルタント協会会員 <b>株式会社 日水コン</b> 洞いある未来へ 代表取締役社長 野村喜一 北陸事務所長 篠原弘則 http://www.nissuicon.co.jp ISO9001 ISO14001</p>	 <p>ゆたかな経験 確かな技術 <b>総合建設 中越興業株式会社</b> 代表取締役 山下 順雄 本社 富山県南砺市野口800番地 TEL (0763) 62-1221 富山支店・金沢営業所 FAX (0763) 62-1222</p>
<p>NIXは新たな社会ニーズに取り組みます。</p> <p>ストックマネジメント事業</p> <p>防災・減災事業 低炭素社会づくり事業</p> <p>まずは「品質」として「信頼」さらに「挑戦」</p> <p><b>株式会社 新日本コンサルタント</b> 代表取締役社長 市森 友明</p> <p>本社:〒930-0142 富山県富山市吉作910番地の1 TEL: 076-436-2111 <a href="http://www.nipponconsal.com">www.nipponconsal.com</a></p>	 <p>みんなの よい食 プロジェクト 富山県JAグループ</p>

ますので期待していてくださいね。

6月28日(火)

学内で先生方にご依頼した原稿の締め切りが迫っていますので、確認メールをお送りしました。お忙しい先生方ですので、原稿を集めるのは大変です。

6月30日(木)

「千瓢」第6号「研究室紹介」・「私の好きなもの」の原稿締め切り日です。なかなか締め切りに間に合って届く原稿が少なくて、困っています。そんな中、原稿依頼してあった東北大震災の被害にあわれたである地域の方から近況も書かれた原稿が届き、生の大変さが伝わってきました。

7月1日(金)

夜7時から理事会を開きました。議題は今年の総会についてです。日程・会場については前回の理事会で決まってはいたのですが、講演会など詳細について話し合われました。また、今年は役員改選の年でもありますのでそのこと

についても確認させていただきました。

7月5日(火)

朝一番に大学事務局の方が同窓会事務局に来られ、大学が関係するプログラムへの理事の選出の相談をされました。工学部卒業生の理事の方をとの事でしたが、どうしてもそのような会議が日中とのこともありますなか安易に返事ができませんでした。

8月9日(火)

印刷が仕上がってきた振込用紙に印字開始です。毎年のことです、スタートはいつもうまくできるかドキドキしています。

8月12日(金)

お盆ですね。学生君達も試験が終わりホッとしているときで、帰省していくのでしょうか？先生方も帰省して、夏休みです。

## 田中正人前富山県立大学長を送る集い

今年3月まで一期4年の学長を勤められた、田中學長を送る集いが8月18日ANAクラウンプラザホテルで開かれた。



田中前学長の富山県立大学を発展させる為になされた業績に対する、賛辞が多数よせられた。

石井富山県知事、杉野研究協力会長、中尾富山経済同友会特別代表、遠藤富山大学長等多くの方の参加があり、なごやかな集いになった。

なお同会場で田中先生に富山県立大学の名誉教授の称号が前澤学長から授与された。

**2 この数字を 1!**  
**3 これでさが**

5代目

答えは「前澤富山県立大学学長は5代目」の学長です。初代学長藤井澄二氏・2代学長川端昭氏・3代学長中島恭一氏・4代学長田中正人氏そして5代目が前澤学長です。

## アルビレオ杯ゴルフコンペ

昨年に引き続きアルビレオ杯のゴルフコンペを下記要領で開催いたします。

皆様のご参加お待ちしております。

開催日：平成23年10月23日(日)

午前8時スタート

場 所：花尾カントリークラブ

(高岡市福岡町花尾5)

参加費：5,000円

\*プレー代(10,000円)は各自でお願いいたします。

参加申し込みは予約の都合もありますので、10月10日までにお願いします。

**2 この数字を 1!**  
**3 これでさが**

98.0%

『サンデー毎日』(毎日新聞社)の8月7日号を見ていたら、「就活で理工系学部出身者が人気なワケ」という記事が目にとまつた。そこに2011年学部別就職率ランキングが載っていて理工系で富山県立大学が98.0%で全国1位にランキングされていました。全国的に就職率が高いとは聞いていましたが、トップとは驚きです。これもきめ細やかな対応が功を奏したのではと思われる。





# 探しています

住所をお知らせ下さい。(会員住所不明者の一覧です。)

西 谷 佳七子 (専1生物)  
名 取 千 晶 (専6環境)

飯 吉

※( )内について  
(短6環境) 学科名  
卒業回  
技術短大  
短期大学部  
工学部  
大学院前期  
大学院後期

## 恩師を囲んで応用数学科第1回生東京クラス会

報告：応用数学科第1回生 1964年卒 馬場 伊美子  
(旧姓中村、現在相愛大学人間発達学部勤務)



後列左から

奥田(池永)都、多田(黒田)仁子、  
藤間(長岡)道子、松戸(横井)雅子、  
川井(田村)佳子、2回生 井田、大谷  
(塚田)昌子、森本(松田)康子

前列左から

玉井(八木)淳子、馬場(中村)伊美子、  
相良先生、山下先生、萩原先生、橋村  
(堀)ヤス

富山県立技術短期大学応用数学科第1回生橋村(旧姓堀)さんが東京在住の同級生に声をかけていただき、2010年10月18日(月)第一ホテル東京でランチのクラス会を開催しました。何十年振りでしょうか、懐かしいクラスメイト32名のうち2名がすでにご逝去され、現在は30名で、いつのまにか皆67歳になりました。30名のうち東京在住は10数名ですが、10名も参加し、何十年の過ぎしこのかたの仕事の話やボランティアのこと、苦労話、楽しい趣味のことなど時間を忘れ、語り合いました。

恩師の新保外志先生は金沢市在住、84歳で病気療養中、須山幸男先生は1998年に小杉町でご逝去、塙本弘之先生は神奈川県在住、89歳で外出できなくなり残念ですがご参加いただけませんでした。でも萩原博先生(80歳、富山県在住)、山下隆弘先生(80歳、岡山県在住)、相良信子先生(79歳、愛知県在住)はとてもお元気でご参加いただきました。

萩原先生は短期大学設立の準備室から応用数学科最後まで勤務されましたので、短大設立準備段階の裏話、そして応用数学科の教育科目はACMの教育基準に準拠していたことから教育のすばらしさなどを語っていました。山下先生は短大の後、愛知学院大学、小樽商科大学、アメリカの大学、岡山大学に勤務され、現在は岡山大学名誉教授になられました。以前と変わらない大きな声で年齢を感じさせないほどお元気でいらっしゃいます。相良先生は短大の後、青山学院大学、そして、アメリカの大学で修士課程の時、大変な御苦労をされた話、そして、愛知大学に勤務しながら京大を往復して研究を続けられ、70歳で京都大学から博士の学位をおとりになり、現在も東京でMATLAB指導の企画をされるなど大変なご活躍をなさっていらっしゃるとのことです、80歳前後の恩師の先生方のご活躍

に67歳の教え子たちは大いに刺激を受けました。

応用数学科第1期生は昭和39年3月卒業で、その当時はコンピュータの仕事は高根の花でした。コンピュータの仕事は東京でも大会社か有名な大学の計算センターなどしかなく、クラス会に集まつた方はみな東京へ出て第一線でコンピュータのソフトウェア開発にかかり活躍したクラスメイトばかりです。学生時代のOKITAC5090の機械語やアセンブラー言語、ALGOLなどのプログラミングを勉強したことなど懐かしく語り合い、現在のようなパソコン普及は想像できなかったことなどや、これからについてもディスカッションしました。

また、相良先生の呼びかけで奥田(旧姓池永)さんが高岡から参加なさって、東京在住の級友と旧交を温めました。ランチのクラス会の後、時間のある方は2次会で近くの浜離宮下賜庭園を恩師と一緒に散策しました。今回、元気でお会いできた喜びをひしひしと感じ、名残り惜しく、これからも健康で再会を誓いました。

2010年10月20日

### 馬場伊美子(旧姓中村)の近況

富山県立技術短期大学応用数学科を卒業後、東北大学大学院情報科学研究科博士課程で「情報科学」の博士号を取得しました。クラス会の記事を書きましたのはクラス会の直後で、その頃は東京未来大学の教授でしたが、2011年3月定年退職、4月から大阪の相愛大学の教授になりました。富山国際大学で「画像情報処理」も担当、数学教育学会理事、情報リテラシー教育研究会代表です。(2011年8月21日記)

## 20回目の同窓会は横浜港の船上で

技術短大 卫生工学科4期 1968年卒 池沢 美津子  
(横浜市鶴見区在住)

「平成3年12月3日に当時の千瓢会関東在住有志が、横浜港のロイヤルウイング上で最初の昼食会を催してから今年で早くも20回目を数えます。そこで今回は20回目を記念して会場を第1回目と同じロイヤルウイングに移して開催することになりました。」これが昨年11月28日に開かれた20回目の関東在住者の同窓会(エトワール会※)の案内状です。

案内状はさらに「この機会に当集いの原点を再確認すると共に、お互いの無事就職を祝す機会を共有し、人生の最終航路へと船出することが趣旨です。」とつづきます。そしてプリントされた20年前の記念写真が同封され「みなさん若いですね。」と書かれています。

あれから20年も経っていたことに驚き、第1回目の集まりの様子が蘇ってきました。卒業以来初めて会う人。結婚や出産以来初めてなど等。感動のシーンがあちこちありました。九州や富山から駆けつけた方もありました。呼びかけ人であり世話人の小橋さんと澤

さんが1968年卒なので、この年代を中心に前後2年の年代の集まりとなってしまいますが、時にはひょっこりと大先輩がみえることもありました。その後20年間で1回だけの方もありますし、参加人数も様々ですが、第20回目は12人でした。

私にとって、第1回目の時は初めての素敵な客船での横浜港のクルージングだというのに、数十年ぶりに会った友人との尽きない話に夢中で食事もクルージングも楽しむ余裕すらありませんでしたが、今回は海の景色も存分に楽しみました。

私の場合この集まりは短大時代からの友人との七夕のように年1回の逢瀬となっています。また短大時代は全く話したことのない友達と回を重ねる度に打ち解け、楽しいひと時を過ごしています。

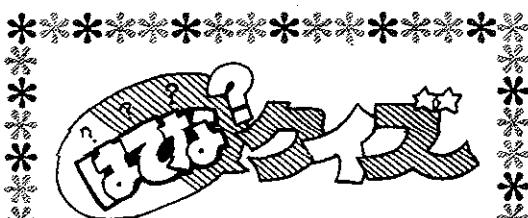
\*エトワール会という名前は、いつもの開催場所のお店の名前です。



第1回エトワール会(ロイヤルウイング号甲板にて…皆さん若いなー)



第20回エトワール会(今回参加者のうち第1回目のメンバーは5人です)



前澤新学長は富山県立大学の何代目の学長でしょうか?

答えは ○代目

(ヒント・今号のトップインタビューを見てください)

☆はがきで〒939-0398 富山県射水市黒河  
富山県立大学内「千瓢」編集部へ答えと住所・氏名を書いて応募下さい。正解者10名に図書カード(500円)進呈! 正解者多数の場合抽選。締め切りは11月15日(当日消印有効)。はがきに「千瓢」の感想も一緒に書いてください。メールでの応募も可。

「千瓢」5号クイズ当選者発表!!

<第5号クイズ>

今年(2010年)は富山県立大学開学何周年でしょうか?

答えは20周年です。

正解者は以下の方々です。(敬称略)

おめでとうございました。

早川俊一・鈴木康裕(富山市)

高橋身果(射水市)

# 平成23年度 同窓会総会

**日 時** 平成23年10月22日(土)  
午後4時30分～総会／5時～講演会／6時～懇親会

**場 所** 富山県立大学講義室 L204講義室(総会・講演会)  
L205会議室(懇親会)

**会 費** 5,000円

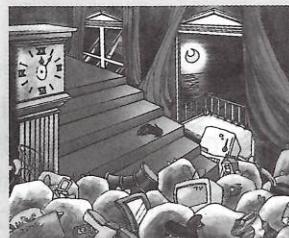
講演会は環境工学科の **立田 真文** 准教授  
演題:「廃棄物である我輩は資源である」  
<環境問題をわかりやすく>がモットーの  
立田先生の面白い講義を乞うご期待!



## ロマンティック廃棄物

— 廃棄物からドラマが見える、Mottai-Nai から命が生まれる —

富山県立大学  
立田 真文 著



電気書院

立田真文著「ロマンティック廃棄物」  
(電気書院)

### 連絡先

携帯からのお問合せはこちら→

富山県立大学同窓会事務局 山口  
〒939-0398 富山県射水市黒河5180  
TEL. 0766-56-7500 (内線 130)  
FAX. 0766-56-0396  
メール. [senpyokai@pu-toyama.ac.jp](mailto:senpyokai@pu-toyama.ac.jp)  
URL. <http://senpyokai.pu-toyama.ac.jp/dsk/homepage1.html>



尚、懇親会には酒類もご用意しております。飲酒運転となりますので、お車でのご来場はご遠慮ください。準備の都合もありますので、出席される方は10月10日頃までに左記へご連絡ください。

## 声

### ♣早川 俊一 (技・草農業1965年卒)

同窓会日誌で山口局長のご苦労お察しします。一人でこれだけの機関誌をつくるお世話誠にありがたく母校の情報を頂いて心が温まります。「私の好きなもの」コーナーは味のある記事です。「近況」は、自分のすることに全力を尽くしていることと、何によってホッとした安らぎの時をつくって生活している様子がわかります。気分転換の時間をつくりながら忙しい日々を健康に乗り切りたいものです。(後略)

### ♣鈴木 康裕 (技・衛生工学1975年卒)

特に感想はありませんが、妻も応用数学科出身です。別々の封筒に送られてきます。一緒に入れれば節約になると思います。短大同志の結婚が少なからずあると思います。ムダなお金をなくす努力が今求められています。会費払います。

### ♥高橋 身果 (短・生物生産1997年卒)

数年前から封筒の裏側が楽しいプリントになっていて中身を見る前にわかるので良いと思います。今回は「懐かしの社会学の教科書」と書いてあって笑いました。

## 十編 集 後 記

▼今回のトップ対談「前澤新学長に聞く」はどうでしたか、富山県立大学の前身の富山県立技術短期大学からの先生の学長就任。同窓生の皆さんの中にも前澤先生の物理の授業を受けた方もおられると思いますが、何か親しみがもたれたのではないかでしょうか。これからが期待です。

▼世界に先駆けて「女王バチを作るロイヤルゼ

リーの成分を発見された」鎌倉昌樹講師。世の為になる研究をしたいという気持ちがひしひしと伝わるインタビューでした。

▼平成23年度の同窓会総会の講演は、環境工学科の立田真文准教授「廃棄物である我輩は資源である」。立田先生のモットーは「環境問題をわかりやすく」で、落語を聴いているように楽しみながら環境問題を理解できると思います。

▼「千瓢」6号をお読みになってどう感じられましたか、感想等を編集部にお送り下さい。ではまた次号で。  
(池上)